

**セブ島通信**  
セブ日本人会報

2022年1月号  
(隔月発行)  
発行所  
セブ日本人会  
5th Floor  
Clotilde Commercial Bldg,  
ML Quezon St. Casuntigan,  
Mandaue City, CEBU  
TEL: (032) 343-8066  
FAX: (032) 343-7663  
発行人: 松田和人  
編集人: セブ日本人会  
http://www.ja-cebu.com  
info@ja-cebu.com

# セブ日本人会会報での 新年の挨拶

在セブ日本国総領事館総領事 川崎敏秀



新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

2022年の年頭にあたり、セブの在留邦人の皆様のご発展とご成功、そしてご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

2021年は、一昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症は終息せず、それ以上に、手を変え、品を変えて、新たな脅威となり新規感染拡大を招き、皆様の生活にも非常に深刻な制約や支障があったことと存じます。

しかしながら、その中でも、単にコロナ禍の過ぎ去るのを待つのではなく、セブの日本人の皆様と一丸となって、外務省の海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業を活用した在留邦人の皆様の新型コロナウイルス感染症対策、そしてセブ市の協力の下、在留邦人ワクチン接種事業に取り組むことができましたことは、セブの日本人社会が、共通の困難に、共に立ち向かうことができることを確認できた素晴らしい大きな実績になったと思います。

また、その新型コロナウイルス感染症も、昨年11月頃に、12月あるいは新年からビザなしでのセブ観

台風被災者の困難に対し、セブ日本人社会が、改めてオールジャパンで一体感を示すことができた大きな実績であり、自信となったのではないのでしょうか。

日本とフィリピンとの関係は、昨年、日比国交正常化65周年、そして戦略的パートナーシップ10周年という、日比両国の未来にとって非常に重要な一年を迎えました。そして、こうした重要な2021年に、在セブ日本国総領事館を新規に立ち上げることができたことは、日本とセブをはじめとするビサヤ地域との関係でも、同地域における更なる領事サービス、企業支援の向上の観点からも重要であり大きな喜びであります。

在セブ日本国総領事館として、未だ、新型コロナウイルスの終

## 新年の挨拶と台風について

セブ日本人会会長 松田和人



大変遅くなりましたが、謹んで新春をお祝い申し上げます。

2022年が始まり1カ月を過ぎようとしています。通常、2021年中に記事を集めて1月初めに新年号を発行しますが、12月16日に台風「オデット」がセブを直撃し、厳しい状態が続いております。セブ島通信を購読いただいているセブ在住の皆様も例年とは違う新年を迎えになり、不自由な生活を強いられる方も未だいらつしやると思っています。「お祝い」や「おめでとう」が

「お祝い」や「おめでとう」が「お祝い」などという言葉が適切なのかと考えさせられました。しかし、厳しい中でも新年を迎えることができたことは、ありがたいことだとも痛感しました。

息の見通しも立たず、また、台風被害も、未だ復旧に向けての作業が急がれている状況ではありますが、昨年1年間に新型コロナウイルス及び台風被害という大きな困難に共に立ち向かった皆様との相互の信頼そして協力関係を、2022年に更に一層強化していくため、皆様のご意見を

改め、セブ日本人会の皆様、そして在留邦人の皆様のご多幸をお祈りし、新年の挨拶の言葉とさせていただきます。

援として「海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業」でした。

- 1：コロナ関係情報誌の作成
  - 2：SNS情報配信（毎日配信）
  - 3：ホットライン
  - 4：コロナ関係セミナー
  - 5：感染対策物資の配布
- ・観光エリアであるマリバゴ地区でのごみ拾いを行いました。

### 2022年の活動

オミクロン感染増加に伴い、規制が強化されているため基本的に昨年と同じ活動内容になります。まず、昨年から継続している会員情報の再度整備を完了させ、緊急連絡網とともに安否確認をどうするかを決定します。

対面イベントは当面できません

## セブ日本人会への年始挨拶

セブ日本人商工会議所会頭 平原良洋



セブ日本人会の皆様ならびにセブ州在留邦人の皆様、明けましておめでとうございます。

セブ島通信の紙面をお借りまして、新年のご挨拶を申し上げます。

本年度、セブ日本人商工会議所での会頭職を拝命しました、ミネベアミツミ（セブミツミ）の平原良洋（ひらはらよしひろ）と申します。宜しくお願ひ申し上げます。まず最初に、私のプロフィールを簡単にご説明したいと存じます。

私は、2014年3月にフィリピン・バタングラス州にある弊社工場責任者として赴任いたしました。その頃はフィリピンも外国企業等の投資が年々増え始めていた状態で、経済発展・生活習慣の変化が随時感じ取れました。2018年4月にセブ工場に勤務場所を移し、現在に至っています。

が、感染状況を見ながら可能なイベントを模索していきたいと思えます。

世界的に感染状況が随時変化している中、セブもレベル3となっており、2022年、セブ日本人会は40年を迎えます。しかし、現状の日本人会としては、一昨年同様、多くの方が帰国され会員数が大幅に減少しております。今まで以上に中長期を見据えて、会の運営を考えていきます。今、そして将来どうするかを常に考えながら活動してまいります。

本年も、セブ日本人会が会員様の皆様にとつて少しでも何かのお役にたてる存在となるため、理事のメンバーと力を合わせてがんばる所存です。会員の皆様のご支援どうぞよろしくお願ひいたします。

趣味は、下手ですがゴルフ、海釣り、映画鑑賞などで休日が直ぐに終わってしまったと感じる生活をしております。

日本人会の皆様と私を含めた弊社とは良好な関係を築かせて頂けており、弊社からの日本人会の行事に積極的に参加・お手伝いをさせて頂いたために、常任理事と推薦理事の

## 2022年新年のご挨拶

セブ邦友会会長 門馬勇



セブ日本人会会員並びにセブ在住の日本人とそのご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞ宜しくお願ひ致します。

合計2名を参加させて頂いております。私自身も、毎年恒例の日本語スピーチコンテストを楽しみにしております。参加者がスピーチされるテーマに驚きを含めた興味を非常に持つております。また、コロナ前にSMシーサイドで開催された桜まつりなど、日本人会が開催されるイベントが素晴らしいものだと思っております。

今年度は令和に改定されてから4年目となりますが、過去2年はコロナウイルス感染拡大により、商工会議所を含め活動が大幅に制限されており、また、日本人会が実施されている補習校授業もままならず、状況が良くなったと思った矢先の台風22号（オデット/ライ）による甚大な被害、年明けからのオミクロン株感染拡大で、新しい年度に向かっているモチベーションが下がってしまいました。オミクロン株が収束すればコロナも収束する、台風被害も甚大でしたが、生活インフラも日に日に復旧しながら元の状態に戻ってきていることもあり、心強くありたいと思っております。

最後となりますが、今年が皆様にとって新たな良い年になるよう祈念致します。

既に言い尽くされてはおりますが、コロナ騒動も2020年の3月よりフィリピンでも警戒態勢が敷かれ始め

もうすぐ丸二年を迎えようとしています。観光業やレストラン業を中心にセブでお仕事に従事なさっている方々の経済的、精神的、苦痛は想像を絶するものがあると推察いたします。

更には追い打ちを掛ける様に昨年12月16日の夜半にかけて大型台風がセブ島を襲いマクタン島やセブ中心部に多大なる被害をもたらされました。私はマクタン島在住ですが、台風襲来のピーク時には今迄経験したことが無い暴風雨と近所の屋根が強風で吹き飛ばされる瞬間には雷が落ちた様な轟音が轟き、生きた心地がしませんでした。翌朝徒歩で近隣の被害状況を見に出てみると、木造の家を中心に全壊又は半壊の状態、更に路上には電柱や巨木が倒れ道路を塞いでいる光景が至る所に飛び込んで来て愕然と致しました。その後飲料水の販売店では電気が止まっている為供給できず、ジェネレーターを稼働させるにもガソリンスタンドが壊滅状態の為ガソリンの供給が出来ず、クリスマス前後までは飲料水を始め様々な生活物資を自力で確保しなければならずパニック状態の中、地獄の様な日々が続きました。クリスマス後は徐々に混乱も治まってきましたが、電気、水道等の本格的な復旧作業はお正月明け迄待たなければなりません。特にマクタン島では未だに多くの家庭では電

## 2022年から理事を務めさせていただきますことになりました

セブ日本人会理事 平松貴史



2022年になりました。昨年末の台風22号（フィリピン名：オデット）は私たちが暮らしているセブ地域にも大きな被害を及ぼし、自宅以外の場所で新年を迎えた方も多かつたものと推察します。

私は今年度からセブ日本人会の理

気、水道やインターネット等が停止したままの状態が続いております。その様な混乱状態の中で家族や友人、近所の方々の多大な協力の中で支えあってこの難局を乗り越えております。改めて「絆」という意味を強く認識させられました。そして台風が過ぎ去った後には、昨年12月には海外渡航の規制が緩和され始めると期待をしておりました矢先に、今度はオミクロン株がフィリピンや日本をも巻き込んで急拡大中と「一難去ってまた一難」と苦難の新年のスタートになりました。

「夜明け前が一番暗い」との人生訓にもありますように、現在がその夜明け前だと信じ希望を持って2022年の明るい未来をセブ在住の日本人とそのご家族の皆様と一致協力して切り開いて行こうではありませんか。

セブ邦友会も2020年3月よりコロナ規制により公式活動は全て一時停止の状態が続いておりますが、今年こそは活動再開との会員一同の思いも強く、セブ日本人会の皆様と手を携えて様々な活動にご協力させて頂きたいと切に願う次第です。

2022年1月吉日

事を努めさせて頂くことになりました平松貴史と申します。何分不慣れなもので、至らない点が多くあるかもしれませんが皆様のお力をお借りして頑張りたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

1年前はコロナ禍で迎えた新年であったことから、せめて今年も去年とは違った多少賑やかな形で新年を迎えようと考えていましたが、逆にそれ以上に厳しい年明けとなりました。私はマクタン島のラプラプラ市在住ですが、自身への備忘録も兼ねて今回の台風での体験をシェアさせていただきます。

この台風は12月16日（木）夜にセブ地域を通過しました。事前の天気予報でも付近を通過する情報が流れ、私自身も2013年台風第30号（フィリピン名：ヨランダ）の経験をもとに、我が家周辺でも2〜3日でライフラインが復旧することを想定して準備をしておりましたが、予想以上に被害が大きく、私の想定を超えるものでした。

台風直後、最初に困ったのは手持ちの現金です。普段はクレジットカードで決済をしており、コロナ禍になってからは、さらに電子マネーなどを使って、外出を控え、デリバリーサービスなどを頻繁に利用していたので、手持ちの現金は最小限にとどめていたところでした。台風の影響による停電等で銀行のATMが使えなくなりました。ATMが使えなくなりましたが、カード等の決済ができなくなってしまう状況の中で物を買うにはどうしても現金が必要で

す。セブ市内では比較的現金が手に入りやすかったようですが、それでも台風の直後はマクタン島在住者もわざわざセブ市の銀行まで出かけていたようですし、セブ市内の人でさえも朝から銀行のATMに並び、夕方になると現金を手にした状態だったとのこと。我が家の場合は、フィリピン人妻のアイデアで、外国人には敷居が高いかもしれませんが、フィリピンに数多く店舗があるセブアナ・ルイリヤー（Cebuana Franchise）などの質店に貴金属を預けることで、何とか現金を確保しました。その後はクリスマス前にマクタン空港のATMで何とか多少の現金が引き出せるようになり、年末になつてようやくマクタン島の一部のスーパードレジットカードが使えるようになってとりあえず現金の心

迎えることになりました。

セブ日本人会理事 平松貴史

2022年になりました。昨年末の台風22号（フィリピン名：オデット）は私たちが暮らしているセブ地域にも大きな被害を及ぼし、自宅以外の場所で新年を迎えた方も多かつたものと推察します。

私は今年度からセブ日本人会の理

私は今年度からセブ日本人会の理

# 新年のご挨拶



セブ日本人旅行業協会 (Japanese Association of Travel Industries, Cebu) 通称 JATICより、新年のご挨拶をさせていただきます。

JATIC会長 下村昭貴

配は回避されたところですが、次に水についてです。我が家の周辺は断水が多かったので、生活用水に関しては普段から大きなバケツに汲み置きしており、その他に別途、飲料水を多めに確保していましたが、台風後には生活用水を3日ほどで使い果たしてしまいました。しばらく飲料水を生活用水に転用したりして1週間ほど凌ぎましたが、長期化の様相を呈してきましたので、新たな解決策を考えざるを得なくなりました。そこで住んでいる敷地内にここ数年使っていない古井戸があったの思い出し出し、その復旧を決断。周辺住民を巻き込み、協力してお金を出し合って修理できたことにより、それ以降、生活用水には困らなくなりました。今では毎朝の井戸の水汲みが私の日課となっています。なお、飲料水についてはこまめに買い足して家にあるストックを出来るだけ減らさないように努めているところです。ちなみにセブ市内では水の値段がかなり高騰していると聞きました。マクタン島では水の値段は比較的安定しているようなので、比較的安定しているようなので、これも助かっています。ちなみに、公共水道については復旧の見込みが立っていないようで、周辺では現在でも頻繁に給水車を見かける場所です。

けになって早朝の時間(朝5時とかですが)であれば何とか我が家でもデータ通信が可能になったところですが、限られた時間帯だけのようですので、今でも定期的に空港に行つて連絡をとるようにしています。そして電気ですが、台風が来る直前の12月16日(木)午後7時頃から停電が始まり、年が明けた現在でも、我が家周辺は停電のままです。携帯電話等の電源を確保するため、定期的に家族総出で早くから電気のあるマクタンニュータウンのカフェや空港のカフェに出掛け、ほぼ丸一日かけて充電させてもらっています。ソーラーパネルのついた電灯やラジオなども日差しの強いフィリピンでは活躍していますが、クリスマスから年末年始にかけては天気が悪く、その際はろうそくの明かり等に頼っていたところですが、マクタン島でも広い幹線道路沿いでは徐々に復旧し始めているところですが、我が家の電気が復旧するまでにはしばらく時間がかかるのではないかと思われます。

私はセブ在住歴10年目で今回は特に苦労していますが、そんな私でも、セブでの生活が比較的安んじているのは、長年にわたる日本人会の皆様の努力があればこそのもので、今後も日頃の活動などを通してお互いに助け合いの精神を活かしながら、ますます皆様が生活しやすい地域となりますよう、私も微力を尽くします。改めましてどうぞよろしくお願いたします。

我々観光業に携わる者として、2020年3月からの新型コロナウイルスによるパンデミックでの国境封鎖により、深刻な事態に陥っています。初期の頃は、数か月で終息すると、楽観的に考えていた部分もありましたが、早2年が経とうとしています。昨年2021年11月には、12月から外国人の観光ビザでの入国が許可されると言う嬉しいニュースがありました。昨今のオミクロン株の拡散により、数日で撤回され中止になってしまいました。さらには記憶にも新しい12月16日~17日にかけての台風オデットによる大災害で、我々のメンバーであり、大切なパートナーであるホテル・マリンスポーツ会社・レストランなど甚大な被害を受けています。日本人観光客がフィリピン・セブ島に来島することができない状態、JATICの活動も休止状態というのが現状です。2020年、2021年は、耐え忍ぶ事しか出来なかった我々旅行業界ですが、2022年は飛躍の年にするべく新年度の4月より

JATICとしての活動を再開する予定です。台風での被害が大きかったマクタン島沿岸部のホテルなども復旧に向けて日々作業が続いていると聞いております。ホテル業界もお客様を迎え入れるべく、前進しておりますので、我々JATICとしても、観光業界に新たな光をもたらすべく、来るべき観光客受け入れ再開に向けて準備を進めてまいります。セブ島では観光業は無くても、観光業であると考えておりません。地元での雇用を生み出し、さらには多くの外国人旅行者にひと時の癒しと楽しみを提供できる素晴らしい産業です。この素晴らしい産業をさらに大きく広げ、日本人のみならず世界の人から愛されるセブ島であり続けるために、我々が出来ることをメンバー一同考え、一丸となってコロナから、また台風からの復興を成し遂げたいと思います。

日本人会のメンバーの方々、また在留邦人の方々には、外国人観光客で賑わうセブ島を取り戻す為、何卒ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。また、まだまだ新型コロナウイルスの脅威は終わってわけではありませんが、どうか日々の感染防止対策を徹底され、ご自愛頂きますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

セブ島はレイテ島を襲ったヨランダの台風の時も、その翌年に起こった地震の時も、壊滅的な被害から逃れることができました。それどころか、セブに生まれ育った多くの人々が一度もこれほど長く生活に支障がでるような災害は経験したことがないのではないのでしょうか。大きな台風が直撃するかもしれない。そのニュースを知っていても、誰がこれほどの被害を予想できたでしょう。それが、16日の夜からセブにいる仲間から、停電や強風の様子、インターネットが繋がらなくなっている状況などの連絡が届くようになって、一気に深刻さが増しました。翌朝、SNSを通じて街中の電柱が横倒しに倒れ、大木が根っこから掘り返され、あらゆるビルの窓ガラスや、住宅の屋根が吹き飛ばされ、馴染みのセブの街並みが一変した被害状況を見て、私自身も唖然としました。

今回は、邦人だけでなく、セブ中に住むすべての人が被害に合うという、とてつもなく広く、大きい被害に、今日日本にいる私に何が出来るだろうかと数日迷っていた時に、パリックバヤンボックスでお馴染みのトランステック社の代表の高橋社長から、一緒にセブに向けて何かできることをしまししよう!とお声がけをいただきました。すでにマニラで起業されている方や、YoutubeのFumiyaくんなども協力したいと名乗りをあげてくれました。その後、すぐに現セブ日本人会代表の松田氏に連絡を取り、セブ日本人会と有志が現場の中心となり、「台風22号(比名・オデット)セブ義援金プロジェクト」が立ち上がりました。

携帯電話の電波に関して、私は日本の会社に所属しておりますが、電波が届かなくなると日本の会社どころか、現地在住の人々とも連絡が取れなくなってしまう。台風から約1週間後、たまたまマクタン空港であれば電波(Smartのみ)やフリーWiFiを使つてのインターネット通信が可能だと聞き、そこで何とか最初の連絡ができたところです。空港以外ではガイサノマクタンアイランドモールでも携帯電話の電波が届いているとのことでした。クリスマス以降は徐々に我が家でも携帯電話に表示されるアンテナが立ちはじめましたが、電話をかけた後も結局繋がりにませんでした。年明け

2020年の3月に突然ロックダウンになり、セブ島や近隣の島々に取り残された在留邦人を帰国させるべく、セブ日本人会と有志で立ち上げた臨時便のことが頭をよぎりました。

途方もなくするべきことが多い中、また現場にいる数少ない人材で効率的に、かつご寄付いただく方々に対して安心して活動報告ができる形で支援することを念頭に活動することにいたしました。

台風後、すでに現地で活動をされていた日系のボランティア団体様にお声がけをさせていただき、各ボランティア団体様を通じ、まずは第一弾として水や食料を中心に各地域に必要な物資を届け、第二弾では食料



## 「台風22号(比名・オデット)セブ義援金プロジェクトについて」

2021年12月16日、約2年近く

に渡り、新型コロナウイルスの影響

セブポット代表 佐藤 ひろこ

**台風22号(オデット)セブ義援金プロジェクト**  
セブ島の復興や人々の支援に私たちができること

Project for typhoon Odette

中間収支報告

義援金総額 **366万4,840円**  
(1,648,964.67ペソ)※1月17日時点

支援物資(お米・缶詰・屋根材・飲料水)	1,402,117ペソ
邦人支援(お弁当・飲料水)	32,500ペソ
倉庫レンタル代	16,000ペソ
フィリピン人件費	15,600ペソ
炊出し費用	12,256ペソ
雑費(ターポリン・ビニール袋等)	14,030ペソ
ガソリン代・交通費	5,800ペソ
謝金(バランガイポリス等)	1,800ペソ
<b>合計</b>	<b>1,500,103ペソ</b>

※日本人の人数は一切含まれていません。  
※支援活動は、規制内容に準じて感染予防に十分に配慮した上で進めています。



**【支援金振込先】**

みずほ銀行(銀行コード0001)  
 亀戸支店(支店番号175)  
 普通口座1415156  
 株式会社マーメイド(カブシキガイシャマーメイド)

**【協力企業・団体】**

主催:セブ日本人会

**協力:**

株式会社トランステック / Sunpride Foods, Inc. / Bigblue Logistics, Corp / IPI, Inc. / セブポット / GLOCALIZER Philippines, Inc. / 台風22号(オデット)セブ義援金プロジェクト有志の皆様

**協力現地ボランティア団体:**

グローリア セブ / NPOハロハロ / 国際協力NGO Anya's / NPO法人セブスピリット / NPO CEBU WISH / NPO法人 DAREDEMO HERO / カオハガン島 / SLPC / FNKN

**メディア広報協力:**

セブポット / Youtuber Fumiya「FumiShunBase」 / YouTube せぶぴー / 現地ローカルメディア各社

**【中間報告】**

2022年1月17日時点

**寄付金総額:3,664,840円(1,648,964.67ペソ)**

※日本人会口座に直接ご入金いただきましたご寄付の一部は、日本人会墓地、セブ観音の修理費等に使用させていただきます。それ以外は当プロジェクトとして使用させていただきます。

**内訳:**

支援物資(お米・缶詰・屋根材・飲料水) 1,402,117ペソ  
 邦人支援(お弁当・飲料水) 32,500ペソ  
 炊出し費用 12,256ペソ  
 倉庫レンタル代 16,000ペソ  
 フィリピン人件費 15,600  
 雑費(ターポリン・ビニール袋等) 14,030  
 ガソリン代・交通費 5,800  
 謝金(バランガイポリス等) 1,800  
 合計 1,500,103ペソ  
 残金 148,861.16ペソ

・日本人会人件費、謝礼等は一切含まれておりません。  
 ・支援活動は、規制内容に準じて感染予防に十分に配慮したうえで進んでいます。



その他、屋根の資材提供なども行いました。現在、第三弾の支援を準備中です。  
 (第二弾までの中間活動報告は下記をご参照くださいませ)。  
 活動の際には、川崎総領事も現場

**新年のご挨拶**

SLPC (Sustainable Livelihood Projects Cebu) は2015年に登録されたNGOです。日本の海外ボランティア支援会社の現地フィリピン人コーディネーターが「自分たち(フィリピン人)が支援する」という意識をもって立

に駆けつけて下さり、共にご支援くださいました。  
 その他、ぜひ現地でボランティアをさせていただきたいという方からご連絡をいただいたり、SNS上でもフィリピンにゆかりのある本場に多くの方々情報拡散や、ご寄付をいただきました。  
 まさに一致団結となって、皆様のご支援の下、活動できていることを心から感謝いたします。  
 また、何より自分の生活も大変な中、セブの復旧のために現地で活動を継続してくれているセブの仲間を

誇りに思います。  
 まだまだ完全な復旧には時間がかかるものの、電気や水道が回復したエリアも増え、少しずつ回復に向かい始めました。  
 私たち、「台風22号(比名:オデット)セブ義援金プロジェクト」としても、2月末までご寄付を募り、それまで継続して活動して参りますので引き続きご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。  
 新型コロナウイルスと共に一日も早く、活気あるセブが復活しますように。

SLPC代表 池頭 稔

ち上げました。SLPCの活動目的は経済的困難を抱える家族の自立をめざすことです。活動の方法は子供たちの教育支援、そして家族に仕事を提供することです。現在セブ市内の複数のスラムにサポートする家族がいます。

今回の台風オデットでSLPCが支援活動する多くの地域に被害ができました。今回はその中でも大きな被害をうけた沿岸部にあるスラムを中心に支援を継続しています。  
 このスラムはマクタン島Lapu-Lapu cityのBarangay Pajoに位置する先住民マノボ族が多く住むコミュニティです。マノボ族の牧師夫婦がコミュニティのリーダーになっています。台風の被害として、牧師によると100世帯以上の家族が家を失いました。家財道具も一緒に流されたのです。家財道具も一緒に失いました。幸い事前情報を受け住民はスラムの外に避難しており、犠牲者はでませんでした。現在もセブ州政府などの公の支援は何も届いていません。  
 コミュニティの教会は2017年に完成した大きな建物です。基礎がコンクリートでできていたため海に流されることは無かったのですが、建物全体に大きなダメージを受けました。屋根が吹き飛び、外壁も大きく損傷をうけました。この教会がいまコミュニティの人たちのよりどころとなっています。

SLPCは当初SLPCサポ



**日本人会による支援の経過**

2022年1月9日海上スラムの住人100世帯への飲料水の配給  
 2022年1月16日100世帯への飲料水、コメ(1世帯5キロ)、缶詰類の配給、教会修復のため天井部分のトタン板25枚  
 日本人会によるサポートは教会の修復に大きな支援となりましたが、引き続きこのスラムは大きな困難を抱えています。コロナ感染のために仕事を失った家族が多いので、今回の台風で家を無くした人たちは自分の力では新しい家を建てるのが難しいと言います。現在は教会や周辺にテントを張って避難生活をおこなっています。彼らの生活支援がこれからの課題であり、SLPCの活動になります。

ターの人たちからの寄付を使い食料提供や教会修復のための資材を提供しましたが、損傷がとて大きくできることは限られていました。今回日本人会からの支援がコミュニティ復興の第一歩になりました。

**ジャパニーズヘルプデスクLINEアカウント**



LINE ID : jhd-cduh  
 ←セブドクターズ (CDUH)

ご予約・お問い合わせはLINEへお願いします。(日本語)

LINE ID : piyo369  
 チョンワマンダウエ → (CHM)



LINEが使えない方へ

マニラの日本人スタッフに繋がる番号はこちら。

02 8817 1289

# セブと日本人をつなぐプロジェクト

はじめに、今回の台風22号によって、被災された邦人の方々も、たくさんいらっしやると思います。心よりお見舞い申し上げます。

グローリアセブは、セブのスラム街に住む子どもたちや、ストリートチルドレンの教育と食育を支援している国際協力団体です。

本プロジェクトには、セブ日本人会、および、セブ島の情報メディアセブポットさんからお声がけをいただき、仲間に加えさせていただきます。

私は、セブに移住して11年になります。

その間、台風ヨランダや、ボホール島地震などの自然災害に直面してきましたが、中でも今回の台風22号は、セブの人たちへ、もっとも大きな被害をもたらしたのではないのでしょうか。

数週間にわたって、電気も水もない生活など、日本にお住まいの方には想像できないことだと思えます。私自身も、住んでいた家の壁と屋



「台風22号(オデット)セブ義援金プロジェクト」では、スラム地区へのお米と缶詰の配給を担当させていただきます。

台風で家が半壊し、避難所生活を余儀なくされていたり、仕事ができなくなると収入が途絶えてしまったみなさんです。

その被災状況に私は目を疑いましたが、いちばん驚いたのは、どんなに過酷な生活を強いられていても、フィリピンの人たちは笑顔を絶やしていないかったことです。

悲観したり、絶望的になるのではなく、どんな状況でも前向きに生きようとするフィリピンの人たちが、学ぶこともたくさんありました。

当団体だけでなく、今回のプロジェクトでは、セブで活動されているいくつもの日系NPO、NGO、そして個人の方が協力し、ボランティア活動を行っています。

ひとつの団体や個人で、出来ることは限られます。でも、このプロジェクトのように、セブ日本人会が中心となったことで、支援の輪は広がりました。

支援物資を受け取ったみなさんは、今回のプロジェクトにとっても感謝してくれています。「台風22号(オデット)セブ義援金プロジェクト」は、セブと日本人をつなぐ、活動のひとつになったと思います。

# 台風被害の支援と今後の展望

セブンスピリット 田中宏明

僕たちの団体はコロナ周辺の子どもたちに音楽・スポーツを中心とした教育支援活動を行っているほか、ゴミ山のあるイナヤワン、また、パルドという地域でも出張音楽教室を行っている。今回の台風オデットでは多くの地域と同様に被害を受け、電気や水道、通信の供給がストップした影響もあって、まずは食料や飲料水のいち早い支援が必要となりました。

弊団体独自で行った募金の呼びかけによって12月29日に最初の食料、飲料水支援を行ったほか、日本人会

さきより1月2日に給水車による飲料水支援をパリアン地区にて行いました。また、特にイナヤワンとパルドは多くの家が半壊、全壊してしまったこととあって、できる限り早い家の修繕が必要となるなか、1月18日には日本人会さまの第二弾支援として屋根材を購入。イナヤワンの家庭に配布することができました。

今後、その他の地域の家の修繕を行っていくほか、地域の方々と密にコミュニケーションをとり、状況に応じた適切な支援を行っていきたくと考えています。多くの方がいまだ大変な状況のなかでの生活を強いられるなか、自分たちだけでの支援には限界がありますので、このように日本人会さまが中心となって支援の輪を広げてくださることに、感謝しています。



# 新年のご挨拶

NGO Anya's HOME INC.代表/校長 Anya

この度、セブ島通信に掲載させて頂く2回目のNGO Anya's HOME INC.でございます！そして、わたくし代表のAnya(あにゃ)と申します(真ん中のピクチャーでございます)。

わたしたちは、現在フィリピンのセブ島で寝泊りの出来ない孤児院、いわゆる寺子屋(Anyas HOME アニャズホーム)を2校運営しております。アニャズホームでは、5スラム+

ストリートで生活している子供たち、全体で約160人を請け負っております。

アニャズホームのエリアでは、フェアトレードが行われておらず、その為いくら頑張っても貧困から抜け出せない地域から始まり、ドラッグの使用及び、売人として生計を立て、望まない妊娠で生まれた子供、親のネグレクト及び、蒸発、近親相姦など色々なバググラウンドがあり、大人の身勝手な事情により、将来ある子供たちがチャンスやオポチュニティもなく、スラムだから、悪名高い地域だからとフィリピン人からも差別を受けている恵まれない子供たちのサポート支援を行っております。

この度、2021年12月16日に巨大台風の直撃により、支援をしていた貧困層の子供たちの家が全壊してしまったり、飲み水・食糧の高騰で、元々栄養失調になるで生活困難だった子供たちがもっと過酷な状況



になってしまいました。

アニャズホームは、食事支援はもちろん、ライフラインも壊滅的で、現在2022年1月21日時点でもアニャズホームセカンドの方は、未だに電気や生活水道水の普及はしていません、食事支でもアニャズホームセカンドの方は、未だに電気や生活水道水の普及はしていません。

水道水の普及はしてならず、食事支援の他、充電式のライトやお家の復興支援を早急にさせて頂きました。援の他、充電式のライトやお家の復興支援を早急にさせて頂きました。

その中で、日本人会様を通じて、約160人(世帯)への飲み水の供給と66枚の屋根のご支援をして頂きました。

皆様、暖かいご支援本当に心よりありがとうございます。

まだまだ、わたしの力不足で極小NGOのため、大変助かりました。

今後も引き続き、この困難をバネにわたしたちも向上させて頂き、食事支援・教育支援そして災害支援を





主に遂行させて頂きたく思います！  
 そして、今後アニヤズキッズたちが世界に飛躍した時に、この恐ろしかった日々が今はトラウマかもしれないが、今後このことをキッカケに、いかなる時でも皆様のようになに優しい人間であることを忘れず強く生き抜いて欲しいと願っております。  
 そして、セブが開国され、セブが開国されましたら、皆様とお会いできること楽しみにしております！  
 時が来るまで、どうぞ皆様も元気でいてください！！  
 またインスタグラムにて、普段の様子などを毎日ストーリーなどで配信させて頂いておりますので、フォロー宜しくお願い致します！  
 インスタグラム：@ngos\_anyas  
 YouTubeもやっておりますので、チャンネル登録とコメントお待ちしております！  
 YouTube：Any's channel  
 ご支援いただける方、インスタグラムのDMにてお問い合わせくださると助かります！  
 これからも、どうぞ宜しくお願い致します！

## 屋根はブルーシート、窓はベニア板。

台風から1ヶ月、屋根も窓も電気もなくとも、地域の人のために奮闘する女性オーナーのインタビュー



こんにちは！セブ日本人会新人理事の関根です！  
 2018年からセブ・マクタン島に移住し2020年にセブシティに越してきました。  
 現在は日系企業で、オンライン・オフラインの教育事業の立ち上げをしております！  
 今回は台風で被災している中、マクタン島で地域の方のために奮闘する、ダイビングショップとイタリアンレストラン兼カレンダーリアを営む女性オーナー、朝倉千尋さんにお話を伺ってきました！

### ◆台風直撃時の状況

海沿いにあるダイビングショップ件自宅は、台風の風と高波で大きな被害を受けました。(写真参照)  
 防波堤が無くなってしまったため、満潮の時に高波が来て、家の中にバシャッと水が入ってきました。膝上まで床上浸水し、飼っている3匹の犬は家の中で水かきしていました。

**プロフィール**  
 朝倉千尋さん(以下ちひろさん)  
 2001年3月にセブ島に移住。セブ歴21年  
 ダイビングショップ/エルアクアリオ、イタリアンレストラン兼カレンダーリア/Reysolのオーナー。ピサヤ語も堪能。



「よし、生きてるところはすぐ活かそう」と思いました。  
 周りのお店はどこもクローズしているの、地域のフィリピン人たちは食材が買えなくておなかをすかせているだろう。出来るだけ早くカレンダーリアは再開させようと決めました。

◆足を止めたら気持ち的にも落ち込むじゃない。生きてるところは活かして、動いて、みんなに少しでも活気が出ればいいなって思いました。  
 17日朝イタリアンレストラン Reysol に行ってみると、レストラン自体の被害はそこまで深刻ではありませんでした。住み込みの3人のスタッフも無事。もちろん停電はしていましたが、ジェネレーターはありました。地下水のくみ上げもできました。

たね。  
 とりあえず夜が明けるまで待ち被害状況を確認し、愕然としたことは一生忘れられないと思います。  
 自宅の崩壊だけでなく、ダイビングショップに併設している桟橋は波で砕けてしまいました。自社所有の2艘の船も、1艘はかなり深刻な被害でした。

◆みんながいたから乗り越えられる  
 正直この台風は20年セブ島に住んでいて、圧倒的に一番キツイですね。だって、屋根もなく1ヶ月電気がないなんて普通ないですね。今までの人生からも考えられませんでしたよ。屋根はブルーシートで、窓にはベニア板をあてがい、電気や水のない生活なんて、でももう慣れました！(大笑い)

◆カラントリアの売上は3倍。マクタン島在住の日本人たちのチャージングステーションとしても開放。  
 17日中に掃除をし、店を整え、18日にはカラントリアをOpenさせました。  
 中には「なんで無料じゃないの！無料で食べ物ちょうだいよ！」という方もいましたね。  
 「私もお金無いよ！家も崩壊して、屋根もないんだよ！」言い返して、一緒に笑っていました。(笑)  
 カラントリアは売り上げで考えれば普段の3倍の来客でした。  
 食材がなくなるとは買い出し・買出しをしては無くなるという無限ループを、バイク1つで行き来しなるとか乗り越えました。  
 また、Reysolのジェネレーターを頼りに多くの日本人の方も訪れました。  
 日本人の方にはチャージングステーションとして、電源を貸出していました。

◆最後に：  
 このような状況で皆さんとても大変だと思えますが、一緒に頑張ってください！

### Pension application 遺族年金の代理申請手続き

(Procedure for Pension Benefits to a Filipina family)

(Cedula, BIR Cert, ID, Cohabitation, bank Cert, Power of Attorney, etc.)

(Person In-Charge in Japan): [Shutaro Nakahara, Administrative scrivener]

[The pension application-documents are necessary for the one issued from Philippine Government. Those are the similar documents but different from the application-documents in Japan]

[After collecting all application-documents, we apply for pension to Japan Pension Service. It will take 3~6 months till the applicant starts receiving the pension regularly]

Please feel free to inquire directly!

Inquiry: Cell: 0081-908-512-8110 (Shutaro Nakahara)

Cell: 0917-7171-839 (Analie Suzuki) Email: rencomeonstandup@yahoo.co.jp

analie\_suzuki@yahoo.com or analie\_suzuki88@yahoo.com

した！(大笑い)  
 この状況も一人じゃなかった事は大きいと思います。  
 お隣の日本料理店「恒」のオーナーの恒さんと、いつか復興して、観光客が戻ってくる！と毎日励ましあっている事も大きな支えです。  
 隣人同士だからこそ、毎日気軽に顔を見せあえる。仲間がいるって事も大きいですね。  
 また、マクタン島在住の日本人の方が充電しにくることによって、みんなが顔を合わせられたのも良かったと思います。顔を合わせるとやっぱり少しホッとするといいものもあつたと思いますし、情報交換もできずね、助け合う事ができました。

変だと思えますが、一緒に頑張ってください！  
 ちひろさんと恒さんは年末年始には、日本人のために、おそばやお鍋、ラーメン、お雑煮などの食事を振舞っていらっしゃいました。  
 まだまだマクタン島ではライフラインがない地域が多く、多くの方が不便な生活を強いられています。そんな中でも、多くの日本人がReysolに集まって、携帯などを充電し、おなかを満たし、笑顔になっていきます。  
 皆さんもいつかマクタン島を訪れた際にはReysolに寄ってみてください。  
 ちひろさんのはじける笑顔を見たら、元気になる事請け合いです！

**便利な IDカード**

**セブ日本人会**では、協賛店／協賛ホテルでお得な特典を受けることができる ID カードを発行しております。緊急時の連絡先や簡単な身分証明としてもご使用いただけます。

会員の 18 歳以上の配偶者・ご子息に限り有料で発行いたします。

未だ ID カードの手続きをされていない会員の方もこの機会に取得されることをお勧めします。ID カードの更新、新規は無料です。紛失などで再発行の場合は実費費用負担をお願いしています。負担額は 200 ペソです。

**広告掲載募集**

- ★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール：info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。
- ★セブ島通信では、発行日（奇数月の月初）の 1 ヶ月前を締切として原稿を公募しております。

**【訃報】**

高橋正徳氏（たかはし まさのり＝セブ日本人会 5 代会長）  
2 月 2 日死去。81 歳。  
故高橋氏はセブ日本人墓地のご寄付、補習校の立上げ、日比交流事業（特に空手）など、セブの邦人社会に多大なる貢献をされました。

**セブ日本人会 協賛店／協賛ホテル一覧**

**食材店**

町屋マート  
三河屋

**ホテル・ビーチリゾート**

Movenpick Hotel Mactan Island Cebu  
Shangri-La's Mactan Resort and Spa Cebu  
Marco Polo Plaza Cebu Hotel  
Waterfront Cebu City Hotel  
Waterfront Airport Hotel  
Waterfront Insular Hotel Davao  
Jpark Island Resort & Waterpark Cebu  
Maribago Bluewater  
Blue water SUMILON ISLAND  
Blue water PANGLAO BEACH  
Lubi Resort Santander  
Anemone Resort and Tours Cebu  
Kandaya Resort Hotel

**ダイビング・マリンスポーツ**

アクアマリンオーシャンツアーズ（マリンアクティビティ）  
ブダンディン・マリン・ダイバー  
アクアパティス  
エメラルドグリーン・ダイビングセンター  
—マクタン店

—サンタダー店  
—モアルポアル店  
—ボホール店

**飲食店**

【マンドラウエ市】  
オイスターベイ（シーフード）  
Tao Yuan（中華料理）  
松之屋（和食）  
【マクタン島】  
Oishi Cebu Japanese Restaurant / 旧だるま（和食）  
夜桜（和食）  
【セブ市】  
はる / 旧さっちゃん（お好み焼き）  
—タランバン店  
悟空（和食）マボロ店  
夢屋喜兵衛（和食）  
秋田 / AKITA（和食）  
Mio Cafe and Restaurant（フィリピン料理）  
韓陽苑（焼肉レストラン）  
幸 全店（日本食レストラン）  
麻布（日本食レストラン）  
Circa 1900（洋食）  
—路発（ラーメン）

但馬屋（焼肉）

**美容・健康**

ワウ・セブ歯科医院（歯医者）  
スマイルデンタル（歯医者）  
Japanese Tea Lounge（マッサージ）  
AVALON SPA（マッサージ）マンドラウエ市  
ProDent Advanced Oral Health（歯医者）：セブ市

**レジャー・スポーツ**

セブトップ（遊覧飛行、体験飛行）

**その他**

Character Studio（オリジナルグッズ）  
誰でもヒーロー（ボランティア）  
NPO セブンスピリット / Sevnsprit（ボランティア）  
QQ English（英会話学校）  
DT Cebu（翻訳・年金申請業務）  
Sky Water Park（プール & レストラン）  
Wabi Linkage Corporation（翻訳業務）

**旅する**

フレンドシップツアーズ  
KSB トラベル  
AS レンタカー

**割引き、もしくは特別サービス御座います。必ず会員証をご持参ください**

**広告募集中です。セブ島通信の発行費は広告料金でまかなっています。ぜひご協力ください。**

**【広告料金】** ① 3 分の 1 2 段 800 ペソ  
② 2 分の 1 2 段 1,200 ペソ  
③ 3 分の 2 2 段 1,600 ペソ  
④ 全幅 2 段 2,400 ペソ

**【お願い】** ① 最低 6 ヶ月は継続してください。  
② この 3 号分は同一原稿です。  
③ お支払は前払原則です。  
④ 完成した原稿をお持ちください。

**【お申込みは】**  
セブ日本人会事務局  
電話：032-343-8066  
FAX：032-343-7663

日付	発表元	内容	日付	発表元	内容			
<b>2020年</b>								
1月30日	Immigration・DOTr	中国から入国制限開始。	4月25日	セブ市	セブ市のECQを5月15日まで延長。			
1月30日	DOH	フィリピン2例目。	5月1日	フィリピン政府	セブ市、マンドラウエ市、ラブラプ市のECQ継続。			
1月30日	DOH	緊急事態と発表。	5月16日	フィリピン政府	セブ市、マンドラウエ市ECQ継続。ラブラプ市GCQへ緩和。			
2月1日	DOH	フィリピンで初の死亡者。	6月1日	フィリピン政府	セブ市、マンドラウエ市がECQからGCQへ緩和。ショッピングモール、タクシー再開。			
2月2日	航空会社	中国本土、香港、マカオへのフライト欠航。	6月2日	航空会社	国内線再開。セブーマニラ経由で日本帰国可能になる。			
2月5日	DOH	フィリピン3人目の症例。	6月16日	フィリピン政府	セブ市はGCQからECQへ戻る。セブ市はショッピングモール閉鎖、タクシー運行停止。			
2月10日	Immigration・DOTr	中国から入国禁止措置開始。	6月22日	フィリピン政府	ドゥテルテ大統領が会見で、セブ市の状況悪化について言及。環境大臣をセブに派遣することを発表。			
2月26日	Immigration・DOTr	韓国から入国制限開始。	6月23日	フィリピン政府	セブ市に警察官や軍の応援を派遣。監視・取締りを強化。			
3月6日	DOH	フィリピンでほぼ1ヶ月ぶりの患者確認。	6月23日	セブ市	セブ市は発行済み検査パスを全て無効とし、新しいパスを配布予定と発表。			
3月6日	DOH	3月6日から毎日陽性者が発生し、本格的な対策が始まる。	6月25日	セブ市	セブ市内12のバラングイでトータルロックダウン実施。			
3月12日	フィリピン政府	ドゥテルテ大統領が会見をし、3月15日からマニラ首都圏の陸海空路を封鎖すると発表。	6月26日	DOH	セブ市49のバラングイで集団感染と発表。			
3月13日	TESDA	3月16日から語学学校は休校するよう通達。	6月26日	セブ市	セブ市は新しいパスの概要発表、配布も開始。			
3月14日	航空会社	マニラーセブ便が欠航。	6月26日	セブ州	セブ市との境界を封鎖することを発表。			
3月15日	フィリピン政府	マニラ首都圏を対象にコミュニティ隔離措置を実施。	7月1日	フィリピン政府	セブ市はECQ継続。マンドラウエ市、ラブラプ市はGCQ継続。			
3月15日	セブ州	セブ島で3月20日から外国人に対する入国制限開始。	7月2日	フィリピン航空	セブー成田便再開。			
3月15日	セブバンフィック航空	国際線の欠航が相次ぐ。	7月16日	フィリピン政府	セブ市はECQからMECQへ緩和。マンドラウエ市、ラブラプ市はGCQ継続。			
3月16日	フィリピン政府	公立学校授業・活動の停止。	7月25日	セブ州	MGCQ地域での観光アクティビティを再開。			
3月16日	フィリピン政府	マニラ首都圏を対象としていたコミュニティ隔離措置をルソン島全域に拡大。	8月1日	フィリピン政府	セブ市はMECQからGCQへ緩和。マンドラウエ市、ラブラプ市はGCQ継続。			
3月16日	セブ市	セブ市で夜間外出禁止開始。	8月1日	フィリピン政府	移民ビザ保持者の入国を許可。			
3月16日	ラブラプ市	ラブラプ市で夜間外出禁止開始。	8月15日	フィリピン政府	公共交通機関利用時にフェイスシールドの着用を義務化。			
3月16日	マンドラウエ市	マンドラウエ市で夜間外出禁止開始。	8月16日	フィリピン政府	セブ市、マンドラウエ市、ラブラプ市GCQ継続。			
3月17日	フィリピン政府	外国人のフィリピン出国はいつでも可能と発表。	9月1日	フィリピン政府	セブ島全域はGCQからMGCQへ緩和。			
3月17日	フィリピン航空	国際線の欠航が相次ぐ。	9月29日	フィリピン政府	リタイアメントビザ保持者の入国許可。			
3月18日	フィリピン政府	ECQの内容を明確化。	10月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを10月31日まで継続。			
3月18日	DOH	セブ島1例目の患者。	11月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを11月30日まで継続。			
3月18日	セブ州	国際線の欠航が相次ぎ、日本帰れない人が出る。	11月1日	フィリピン政府	47(a)(2) ビザなど、一部のビジネスビザ保持者の入国許可。			
3月19日	DFA	3月22日から外国人の入国制限開始と発表。	11月16日	セブ市	セブ市は他市からのレジャー目的や許可のない人の入市を制限。			
3月19日	セブ市	娯楽施設の営業中止を命令。	11月16日	ラブラプ市	ラブラプ市住民以外の観光(ホテル、観光アクティビティ)の受け入れを停止。後に12月から再開。			
3月19日	セブ市	モール臨時休業開始。	12月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを12月31日まで継続。			
3月23日	セブ州	セブ島でレストラン店内飲食禁止。	12月28日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを2021年1月31日まで継続。			
3月25日	セブ州	セブでECQ実施のアナウンス。	12月29日	フィリピン政府	12月30日～2021年1月15日まで、日本を含む20か国からの外国人の入国禁止を発表。			
3月25日	日本外務省	フィリピンに対し、感染症危険情報の発出。	12月30日	マクタン空港	12月30日以降、全ての入国者はPCR検査陰性であっても、政府の隔離施設にて14日間の隔離を行うことを発表。			
3月26日	日本法務省	フィリピンを入国拒否対象地域に指定。	<b>2021年</b>					
3月26日	日本厚生労働省	3月28日以降の日本入国規制強化を発表。	1月15日	フィリピン政府	日本を含む33か国からの外国人の入国禁止を1月31日まで延長すると発表。			
3月28日	セブ市	セブ市ECQ開始。	2月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを2月28日まで継続。			
3月29日	ラブラプ市	ラブラプ市ECQ開始。	2月5日	フィリピン政府	フィリピン政府は、2月16日からフィリピンへの入国が許可される外国人の対象を拡大する旨発表。昨年3月以来では最も緩和された内容となる。			
3月30日	セブ州	セブ島ECQ開始。	3月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを3月31日まで継続。			
3月30日	マンドラウエ市	マンドラウエ市ECQ開始。	3月1日	フィリピン政府	フィリピンで新型コロナウイルスのワクチン接種が始まる。			
4月2日	セブ市	マスク着用義務化。	3月16日	フィリピン政府	フィリピン政府は、3月20日から4月19日まで外国人等の入国を停止することを発表。ほぼ全ての外国人が入国禁止の対象となる。			
4月7日	フィリピン政府	マニラ首都圏ECQ延長。	3月19日	フィリピン政府	3月16日の内容を緩和し、一部の外国人はフィリピン入国対象となる。			
4月15日	DOH	セブで患者数急増。						
4月17日	セブ市	バラングイLUZをトータルロックダウン。						

日付	発表元	内容
3月26日	日本政府	3月29日より、フィリピンを「新型コロナウイルス変異株流行国・地域」に指定することを発表。フィリピン滞在者は、日本到着時の検疫が強化される。
3月25日	セブ市	セブ市は、セブ以外の州からセブ市に入る人は到着前72時間以内に取得されたRT-PCR検査の陰性証明書が必要と発表。
3月27日	フィリピン政府	フィリピン政府は2021年3月29日から4月4日までマニラ首都圏及び4州におけるECQの実施を発表。マニラとその近郊は、昨年以来の事実上ロックダウンとなる。
4月1日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを4月30日まで継続。
4月14日	セブ市	2021年4月14日はフィリピンにキリスト教が伝来して500年。セブ市は市長令で祝日となる。
4月15日	フィリピン政府	外国人等の入国を停止期間を4月30日まで延長することを発表。
4月20日	報道機関	マニラのコミュニティパントリーという民間ボランティアによる無料物資配給所がニュースで報じられる。数日の間にフィリピン全土に拡大し、セブ島でも見られるようになる。
4月26日	フィリピン政府	昨年からの新型コロナウイルス累計感染者が100万人を超える。
4月27日	フィリピン政府	2021年4月27日はフィリピンではマゼランを打ち破ってからちょうど500年。フィリピン政府は国、地方自治体では全国一斉に国旗掲揚を行うと発表。
4月28日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを5月14日まで継続。
4月28日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを5月14日まで継続。
4月30日	フィリピン政府	入国規制を緩和。入国時に有効なビザを持つ外国人は入国が認められる。
5月6日	フィリピン政府	全ての入国者は入国時に14日間の検疫、うち最初の10日間は検疫施設での隔離を実施すると発表。
5月12日	フィリピン政府	SRRV (リタイアメントビザ)の新規申請を50歳以上に限り再開。
5月13日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを5月31日まで継続。
5月31日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを6月15日まで継続。
6月12日	フィリピン政府	ワクチン接種を完了した65歳以上の高齢者は外出が可能になる。
6月15日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを6月31日まで継続。
6月21日	フィリピン政府	屋内・屋外でのフェイスシールドの着用義務を再度周知。
6月21日	フィリピン政府	ドゥテルテ大統領は会見で、全国民がワクチン接種を終えるまで公立学校の対面授業の再開を認めないと述べる。
6月28日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを7月15日まで継続。
6月28日	フィリピン政府	ワクチン接種者／グリーン国からの入国者は、隔離期間の短縮を発表。(日本からは対象外)
7月15日	フィリピン政府	セブ島全域はMGCQを7月31日まで継続。
8月1日	フィリピン政府	マンダウエ市・ラプラブ市・セブ市はMECQ、セブ州はGCQに変更。8月15日まで。MECQ下では屋内飲食不可など規制が強化される。
8月13日	フィリピン政府	マンダウエ市・ラプラブ市・セブ市はMECQ、セブ州はGCQを8月31日まで継続。
8月28日	フィリピン政府	マンダウエ市・ラプラブ市・セブ市はMECQ、セブ州はwith heightened restrictionsを9月7日まで。
9月3日	セブ市	セブ市は、ワクチン接種者のみ屋内飲食やヘルスケアサービスが利用可能となる。ワクチン接種者に対する優遇措置はフィリピンで初めて。
9月6日	フィリピン政府	マンダウエ市・ラプラブ市・セブ市はGCQ、セブ州はwith heightened restrictionsを9月30日まで継続。

日付	発表元	内容
9月12日	フィリピン政府	フィリピンへの入国に際して入国禁止指定10カ国を解除し、新たに「イエロー」、「レッド」のシステムを導入。日本はイエローに分類されるが、短期ビザでの入国は引き続き不可。
9月15日	フィリピン政府	9月16日からNCRでは、昨年から続けている現在のCQを改めて、アラートレベルとグラニューラロックダウン(局所ロックダウン)システムを導入。10月からフィリピン全土での運用を目指す。
9月30日	日本政府	フィリピンから日本入国者及び帰国者は、検疫所の指定する場所で6日間待機となる。従来の3日間から強化。
9月30日	フィリピン政府	ラプラブ市・セブ市はGCQ、セブ州はwith heightened restrictionsを10月31日まで継続。
10月22日	フィリピン政府	セブ島全域は、昨年3月から続いた検疫措置コミュニティアラランティーからアラートレベルに移行。
10月28日	フィリピン政府	フィリピン政府は、日本国政府発行の新型コロナワクチン証明書を有効とすることを発表。
11月8日	日本政府	フィリピンから日本入国者及び帰国者は、検疫所の指定する場所での待機が3日間となる。従来の6日間から緩和。
11月12日	日本政府	日本政府は、フィリピンが発行するワクチン接種証明書(日本国内の承認済みワクチンのみ)を日本入国時に有効と認める。ワクチン接種者は施設隔離が免除。
11月15日	フィリピン政府	アラートレベル3以下の地域(セブ島は全域で2)では、病院などを除きフェイス・シールドの着用が任意となる。
11月15日	フィリピン教育省	昨年3月以降初めて、公立学校の対面授業が再開される。対象は試験校として選ばれた約100校。
11月16日	フィリピン政府	フィリピン政府は、日本で発行したワクチン接種証明書を承認。
11月16日	フィリピン政府	日本がグリーン国に分類される。従来はイエロー国。
11月16日	フィリピン政府	グリーン国の入国者はワクチン接種済みであれば入国後の施設隔離が不要。
11月19日	マンダウエ市	マンダウエ市では、ワクチン非接種者はモールへの入館ができなくなる。
11月19日	セブ市	セブ市では、11月22日から15歳未満の子供はスーパーマーケットへの入館ができなくなる。
12月16日	フィリピン気象庁	台風22号(オデット)がビサヤ地方を通過。セブ島をはじめ各地に甚大な被害をもたらす。
12月21日	フィリピン政府	台風22号被害に対し、災害事態を宣言。12月21日時点で被災者は420万人。

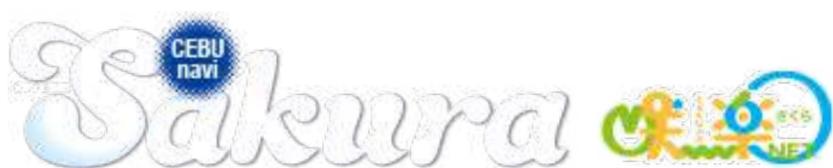
2022年

1月1日	フィリピン政府	日本はイエロー国に該当。従来のグリーン国から入国時検疫が強化される。
1月6日	フィリピン政府	ラプラブ市がレベル3に変更。従来のレベル2から規制が強化される。セブ市、マンダウエ市はレベル2継続。
1月7日	日本政府	フィリピンを「オミクロン株に対する指定国」に指定。日本入国時に施設検疫が3日間が課される。
1月14日	フィリピン政府	セブ市、マンダウエ市がレベル3に変更。セブ島は全てレベル3となり、規制が強化される。
1月16日	フィリピン政府	日本はグリーン国に該当。従来のイエロー国から入国時検疫が緩和される。
1月19日	セブ市	現在のレベル3では、成人のワクチン未接種者は全ての屋内施設への立ち入りが禁止される。
1月27日	フィリピン政府	2月1日より、グリーン・イエロー・レッドの分類による入国時検疫を一時的に停止。
1月27日	フィリピン政府	2月10日より、査証免除対象国・地域(日本を含む)からの完全なワクチン接種をしたビジネス・観光目的の外国人の入国を許可すると発表。
1月28日	日本政府	フィリピンからの入国時の自主隔離期間が7日間に短縮される。

広告掲載のお礼

この度フリーペーパー各社(セブトリップ、咲楽、セブポット様)のご厚意により日本人会の情報、お知らせを無料で掲載していただくことになりました。いろいろな情報がたくさんの方に発信できるようになり関係者一同喜んでます。この場を借りて御礼を申し上げます。

セブ日本人会 会長 松田和人



★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール: info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。  
★セブ島通信では、発行日(奇数月の月初)の1ヶ月前を締切として原稿を公募しております。